

Rollei
35RF
Owner's Manual

取扱説明書

下記の注意事項をよくお読みになった上、正しくお使い下さい。以下の事項が守られずにカメラに故障が生じた場合、保証は適用されません。また、これらの注意事項は、万一にもあなたや周りの人々に危害や損害が起こるのを未然に防ぐためのものです。警告表示マーク・注意表示マークの意味は下記のとおりです。



注意

このマークは、注意事項を守らずに誤った取り扱いをすると、使用者などが重傷を負う可能性がある状況、および物的障害のみの発生が想定される内容です。必ずお守り下さい。



警告

このマークは、注意事項を守らずに誤った取り扱いをすると、使用者などが死亡または重傷を負う可能性がある内容です。



禁止

この記号は行為を禁止する記号です。



接触禁止



警告(電池について)



このカメラの取扱説明書中で指定されていない電池は、使用しないで下さい。電池の破裂、液漏れにより、火災、怪我の原因となります。



電池を火の中に入れて、ショート、分解、加熱や、アルカリ電池およびリチウム電池などの充電できない電池に充電をしないで下さい。爆発して大怪我の危険があります。



取り外した電池は、お子様の手の届かないところへ置いて下さい。万一、飲み込んだ場合、電池が壊れて電池の液で胃、腸等が損傷する恐れがありますので、直に医師と相談して下さい。



万一、カメラ(電池)が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常が起こった場合、そのまま使用すると火災、火傷の原因となります。火傷しないように十分に注意して電池を取り出し、弊社サービス部までご連絡ください。



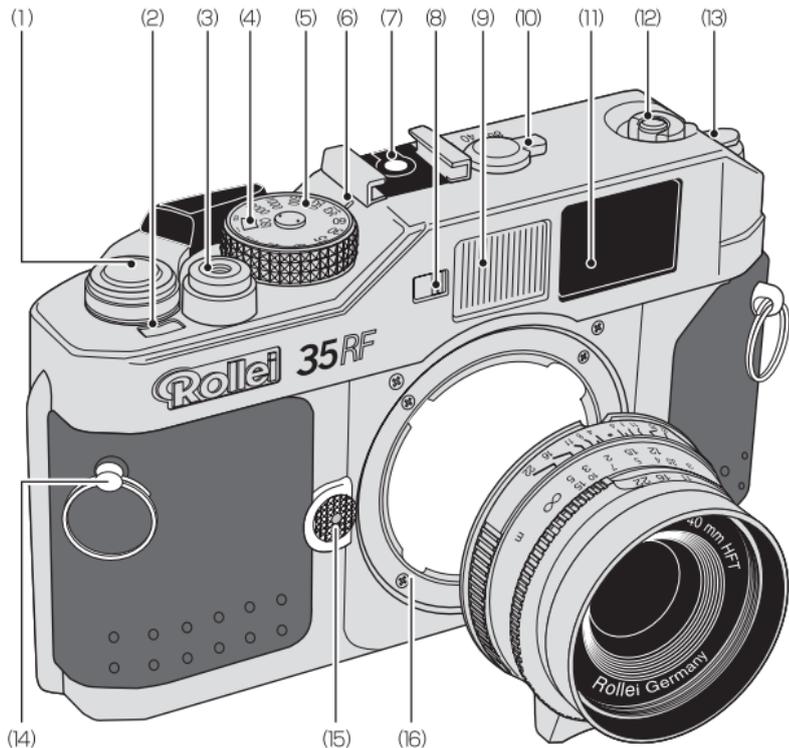
電池廃棄の際には、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。他の金属と混じると発火・破裂等の原因となります。

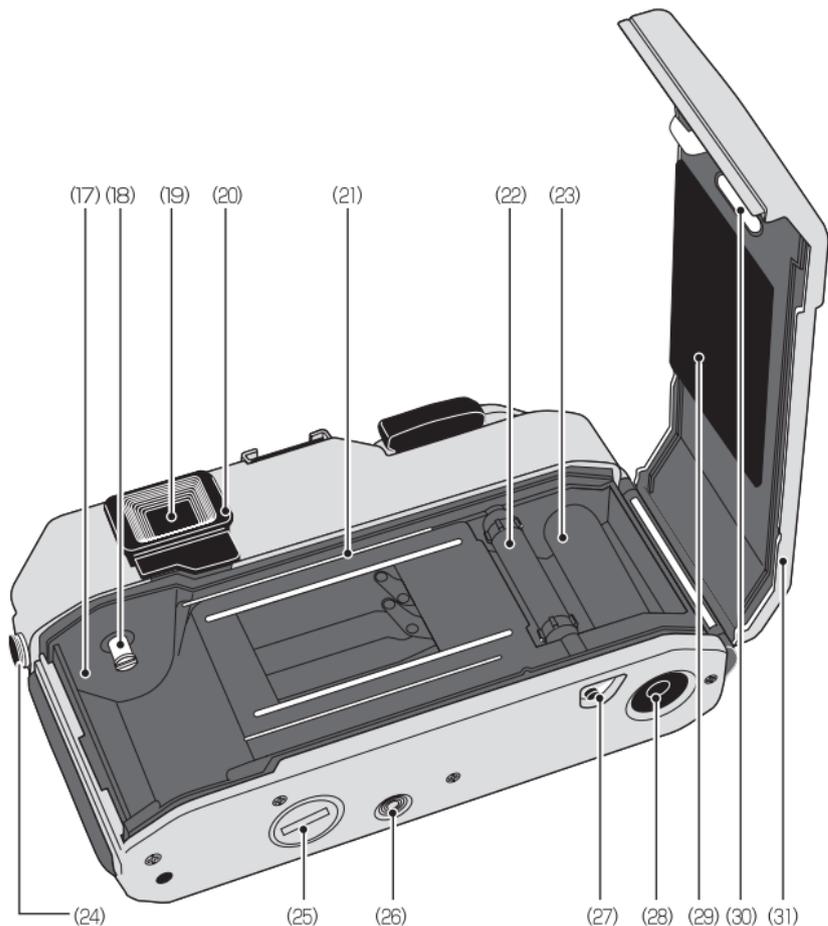


カメラに電池を入れる際、「+」「-」の接点を正しく入れてください。電池の破裂・液漏れにより火災・怪我の原因となります。

	
	車の運転者等に向けてのフラッシュ発光はしないでください。事故の原因となります。
	フラッシュの発光部分を手で覆ったり、連続発光のあとで発光部に触れたりしないでください。火傷の原因となります。
	フラッシュを人やペットの目に近づけて発光させないでください。目の近くでフラッシュを発光させると、視力障害を起こす危険性があります。特に、乳幼児やペット撮影をするときは1m以上離れてください。
	
	自分でカメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧回路があるので感電の危険性があります。
	カメラを高温状態の車の中に放置したり、熱いものの側に放置しないでください。カメラ本体が高温となり火傷をする危険があります。
	落下や強い衝撃によりストロボ部分が破損した場合は、内部に手を触れないでください。高電圧がかかり感電する原因となります。
	低温状態のなかにカメラを放置しないでください。触れると怪我の原因となることがあります。
	カメラで直接、太陽や強い光源を見ないでください。目を傷める危険性があります。
	カメラを三脚に取付けたままの移動はしないでください。つまずいたり、ぶつかけたりして事故や怪我の原因となります。
	カメラは乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると窒息する危険があります。
	カメラをストラップで下げているときは、他のものを引っ掛けたりしないようにご注意ください。怪我等の原因となることがあります。
	カメラは湿気や埃のない場所で保管してください。火災・感電の原因となります。
	カメラごと水に落としたり、内部に水が入った場合は、電池を抜いて速やかに弊社サービス部までご連絡ください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
	自動車等の運転者は運転中絶対にカメラを操作しないでください。交通事故の原因となります。

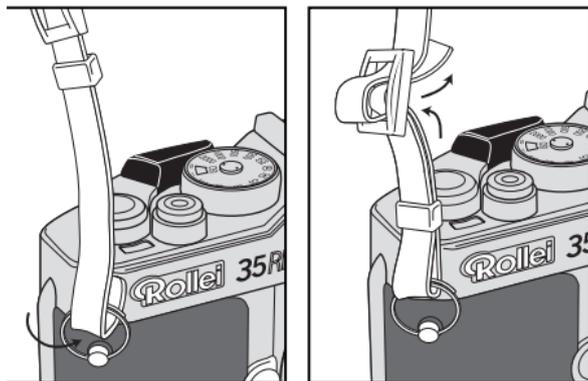
- (1) フィルム巻上げレバー
- (2) フィルムカウンター
- (3) シャッターボタン
- (4) フィルム感度窓
- (5) シャッタースピードダイヤル/
フィルム感度セットリング
- (6) シャッタースピード指標
- (7) アクセサリーシュー
- (8) 距離計窓
- (9) ファインダー採光窓
- (10) フレームセクターレバー
- (11) ファインダー窓
- (12) 巻戻し軸
- (13) 巻戻しクランク
- (14) 吊り金具
- (15) レンズ着脱ボタン
- (16) マウント





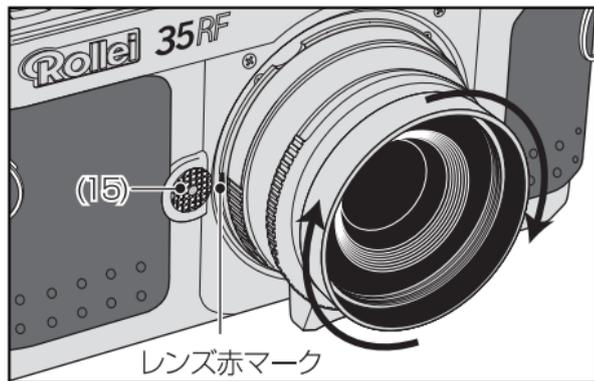
- (17) パトローネ室
- (18) フィルム巻戻し軸
- (19) ファインダー接眼窓
- (20) 接眼枠
- (21) フィルムガイドレール
- (22) スプロケット
- (23) 巻取りスプール
- (24) シンクローターミナル
- (25) 電池室ぶた
- (26) 三脚ねじ穴
- (27) 巻戻しボタン
- (28) ワインダーカプラー
- (29) フィルム圧板
- (30) フィルム確認窓
- (31) 裏ぶた

ネックストラップの取付け方



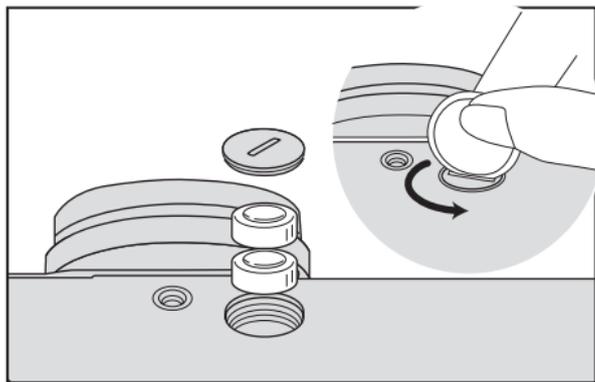
付属のネックストラップは図のように取付けてご使用ください。

レンズの取付け・取外し方



1. レンズ着脱ボタン(15)の赤マークと、レンズの赤マークを合わせて、時計方向にカチ音がするまで回します。
2. レンズをはずす場合は、レンズ着脱ボタンを押したままレンズを反時計方向に回して外します。

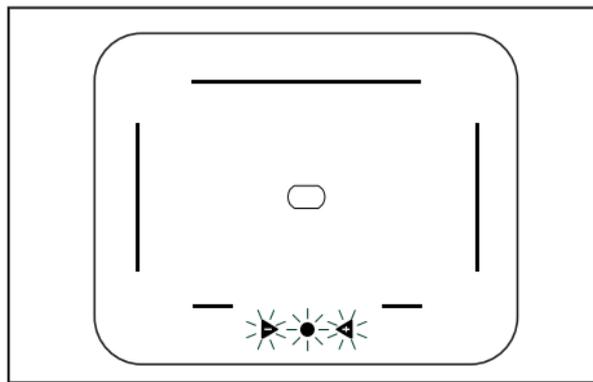
電池の入れ方



LR44型アルカリ電池2個、またはSR44型酸化銀電池2個を使用します。

1. 電池室ぶた(25)を、コインなどで反時計方向に回して外します。
2. 電池を電池室に図のように が下になるように入れてください。
3. 電池室ぶたを時計方向に回して確実にねじ込みます。

電池の残容量チェック

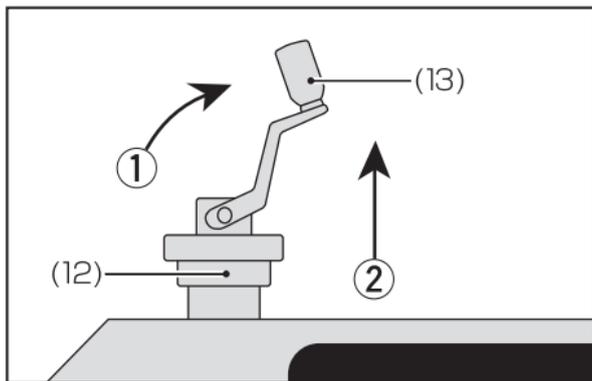


巻き上げ完了後シャッターボタン(3)を軽く押しします。(半押し)

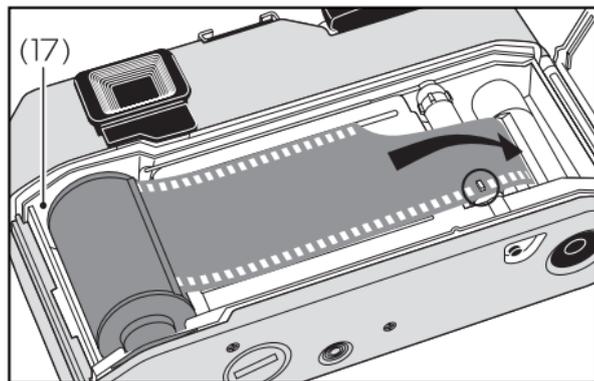
ファインダーを覗き、3個のLEDランプのどれかが点灯していれば、電池容量はOKです。ひとつも点灯していない場合は、電池を入れ間違えているか、電池が消耗しています。電池が消耗している場合は、2個とも新しい電池と交換してください。

注)撮影後はシャッターボタンを押しても不用意に電源が入らなくなっています。

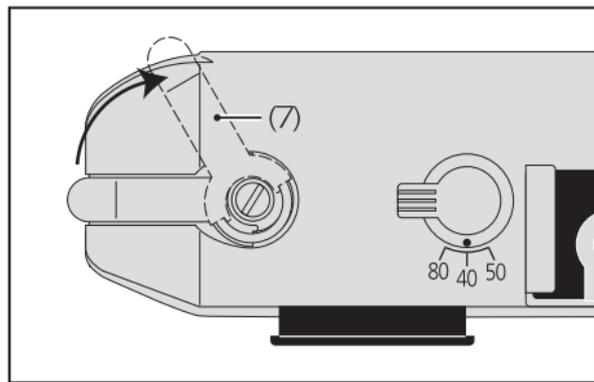
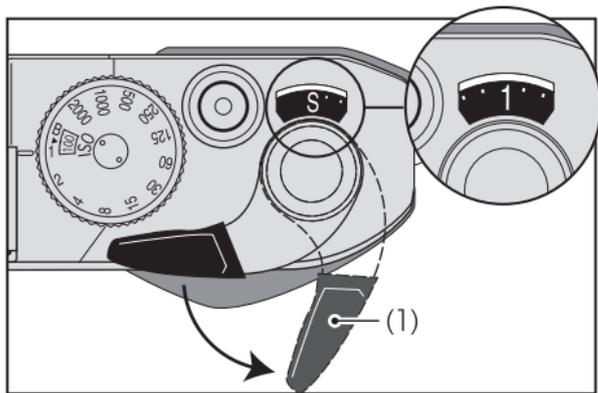
フィルムの入れ方



1. 巻戻しクランク(13)を上を起こし、巻戻し軸(12)ごと引き上げると裏ぶたが開きます。裏ぶたが開くと、フィルムカウンター(2)は、“S”になります。
2. パトローネを出っ張りのある方を下にして、パトローネ室(17)に入れます。
3. 巻戻し軸を元の位置に下げて、パトローネに噛み合わせます。
4. フィルム先端を巻取りスプール(23)の溝に差し込み、フィルムの穴(パーフォレーション)をスプールの溝の下方の爪に引っ掛けます。



- 注) フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。
- 注) フィルムの出し入れの際に、指先やフィルムの先端がシャッター幕に触れないように注意してください。



5. 巻上げレバー(1)でフィルムを巻上げます。

- ・フィルムが上下のフィルムガイドレール(21)の間に正しく置かれていること、フィルムの穴がスプロケット(22)の歯に噛み合っていることを確認してください。

6. 裏ぶたを、パチンと音がするまで静かに押し閉じます。

7. 巻戻しクランクを矢印の方向にゆっくり回して、フィルムのたるみを無くします。

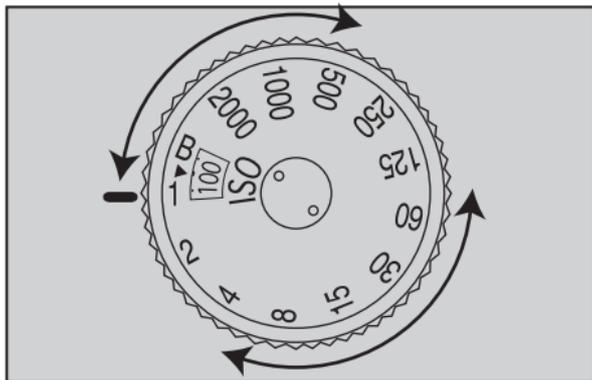
- ・クランクを回す力が重くなったら、フィルムのたるみがない状態です。

8. 巻戻しクランクを元の位置に倒します。

9. 巻上げレバーを巻上げてシャッターをきる動作を繰り返して行い、フィルムカウンターが“1”になるまでフィルムを巻上げます。

- ・フィルムを巻上げるとき、巻戻し軸が回っていれば、フィルムは正しく送られています。必ず確認してください。
- ・巻上げレバーは、ゆっくり確実に巻上げてください。

フィルム感度のセット



フィルム感度は、フィルムの外箱、説明書、あるいはパトローネに明記されています。

1. フィルム感度セットリング(5)を引き上げながら回します。
2. フィルム感度窓(4)内で使用フィルムの感度と同じ目盛を指標に合わせます。

注) フィルム感度は必ず目盛の位置を指標に合わせてください(確実にクリックに落ち込む位置にセットしてください)。目盛以外の位置に合わせると正確な露出表示が得られません。

適正露出のLED表示

▶ ● ▲	約1段階以上露出オーバー
▶ ● ▲	約1段階露出オーバー
▶ ● ▲	適正露出
▶ ● ▲	約1段階露出アンダー
▶ ● ▲	約1段階以上露出アンダー

ファインダー内のLEDランプによって適性露出を判断することができます。

- 印が点灯すれば、適正露出です。
- ▲印が点灯している場合は露出オーバーです。
- ▶印が点灯している場合は露出アンダーです。

LEDランプはシャッターボタン(3)を一度軽く押すと約12秒間点灯します。測光途中でLEDが消えた場合は再度シャッターボタンを半押ししてください。

シャッタースピード優先の場合

ISO100 のフィルム使用時のシャッタースピードの一般的な目安は、表の通りです。

- シャッタースピードダイヤルの目盛りは“2000”は1/2000秒を、“1”は1/1秒を、“B”はバルブを表しています。
- シャッタースピードは、被写体が明るいほど、被写体の動きが速いほど、使用フィルム感度が高いほど、高速にセットします。

撮影の状況	シャッタースピード(秒)
薄暗く、 静止している被写体	1~1/15
一般的な被写体	1/30~1/60
晴れた屋外	1/125~1/250
真夏の海辺、雪山、 動きの速い被写体	1/500~1/2000

1. 巻上げ完了後シャッタースピードダイヤル(5)を回して、希望のシャッタースピードをシャッタースピード指標(6)に合わせます。
 - シャッターダイヤルは目盛の中間位置で止めて使用すると正確なスピードが得られます。カチッと音がするクリック位置にセットしてください。
2. シャッターボタン(3)を軽く押し、レンズの絞りリングを回します。
 - ファインダー内のLEDランプ、●印が点灯すれば、適正露出です。
 - ◀印が点灯している場合は露出オーバーなので、絞りを絞り込む方向に回します。
 - ▶印が点灯している場合は露出アンダーなので、絞りを開く方向に回します。

絞り優先の場合

絞り値は被写体の明るさ、被写界深度のとり方、使用フィルムの感度などによって選びます。ISO100のフィルム使用時の一般的な絞り値の目安は、表の通りです。

撮影の状況	絞り(F)
夜間、被写界深度を浅くしたい場合	開放～F4
曇天の屋外	F4～8
晴れた屋外	F8～11
真夏の海辺(晴れた日)	F11以上
雪山(晴れた日)	F11以上

1. レンズの絞りリングを回して、希望の絞り値をレンズの指標に合わせます。
2. 巻上げ完了後、シャッターボタン(3)を軽く押し、シャッタースピードダイヤル(5)を回します。
 - ・ファインダー内のLEDランプ、●印が点灯すれば、適正露出です。
 - ・◀印が点灯している場合は露出オーバーなので、シャッタースピードを早くします。
 - ・▶印が点灯している場合は露出アンダーなので、シャッタースピードを遅くします。

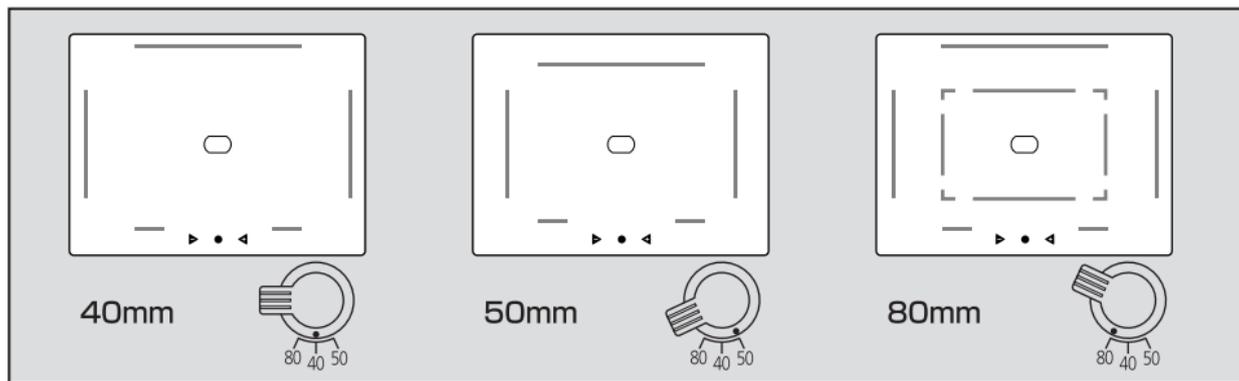
このカメラの測光範囲は EV1 ~ 19 (ISO100) です。

各フィルム感度での露出計に連動するシャッター速度の範囲は下表の通りです。

×の部分にはLEDが点灯しても、露出計は連動しませんのでご注意ください。

フィルム 感度(ISO)	シャッター速度										
	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/500	-	-
25	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/500	-	-
50	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/500	1/1000	-
100	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/500	1/1000	1/2000
200	×	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/500	1/1000	1/2000
400	×	×	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/500	1/1000	1/2000
800	×	×	×	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/500	1/1000	1/2000
1600	×	×	×	×	1/15	1/30	1/60	1/125	1/500	1/1000	1/2000
3200	×	×	×	×	×	1/30	1/60	1/125	1/500	1/1000	1/2000

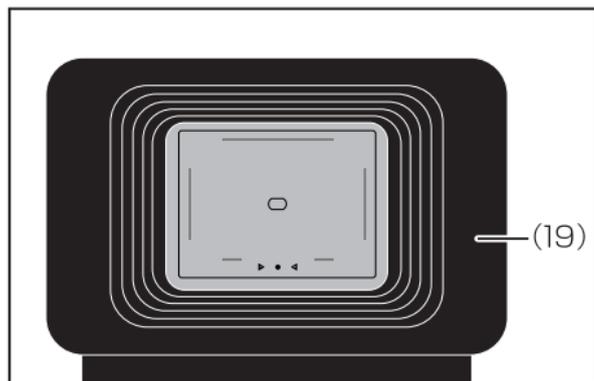
フレームの選択



フレームセクターレバー（10）を回し、ファインダーを覗くと下図のように各焦点距離のレンズで写る範囲を示すフレームが出現します。ご使用の交換レンズの焦点距離に合わせて、セットしてください。

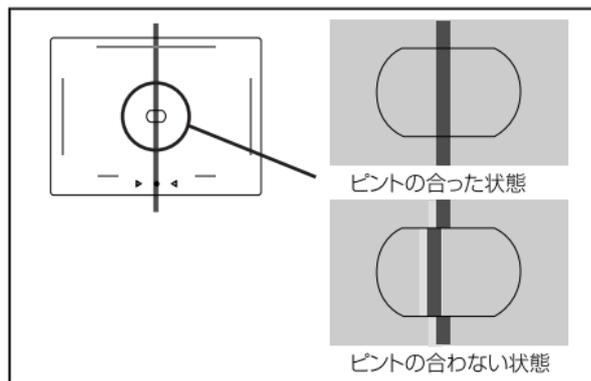
また、どのフレームも撮影距離に応じてパララックスは自動的に補正されます。

ピントの合わせ方



ファインダー接眼窓 (19) を覗きながらレンズの距離リングを回し、中央の距離計部分の二重像を合致させます。

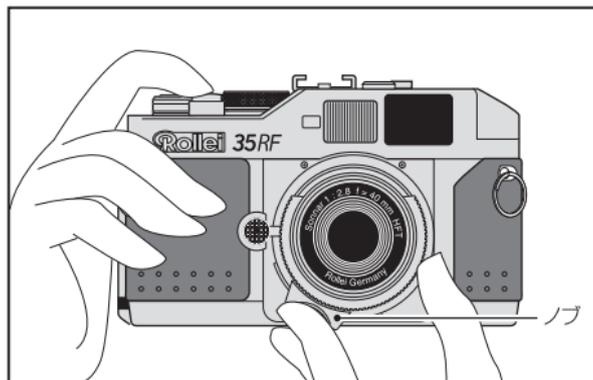
*ピントを合わせる時は、ファインダー接眼窓の中央に眼を置いてを覗いてください。



Rollei35RF は、実像タイプの二重像合致式のため距離計部と周辺の視野がハッキリ別れています。ピントを合わせる被写体にタテ線（カメラをタテ位置で構えるときはヨコ線）がある場合は距離計部のエッジを利用した上下合致式によるピント合わせをおすすめします。

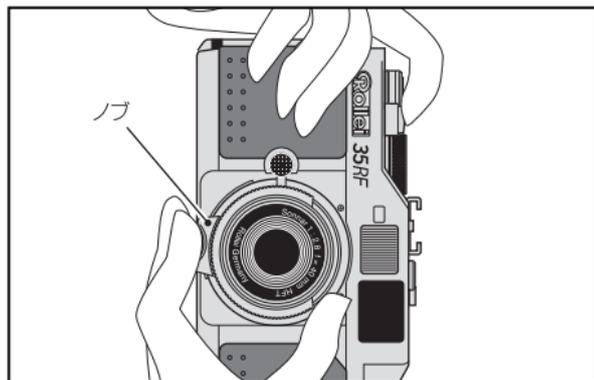
これにより、より正確なピント合わせが行なえます。

カメラの持ち方、構え方



- 左手はカメラの底を支え、左手の親指と人さし指で距離リングを回せるように持ちます。
- 右手はボディの右側を軽く握り、人さし指をシャッターボタン(3)にかけます。
- 両手のひじを軽く体につけ、ファインダー接眼窓を覗きます。

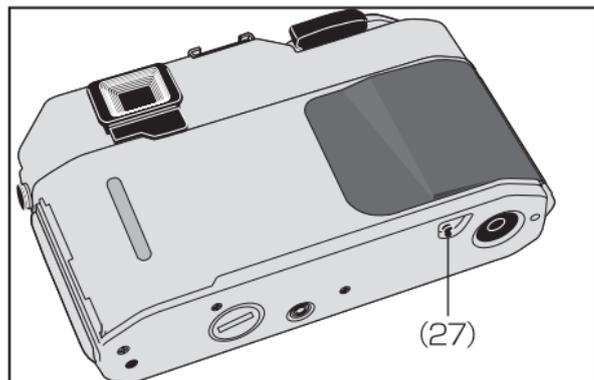
※レンズにノブが付いている場合(ゾナー 40mm など)はノブに指を掛けて距離リングを回してください。



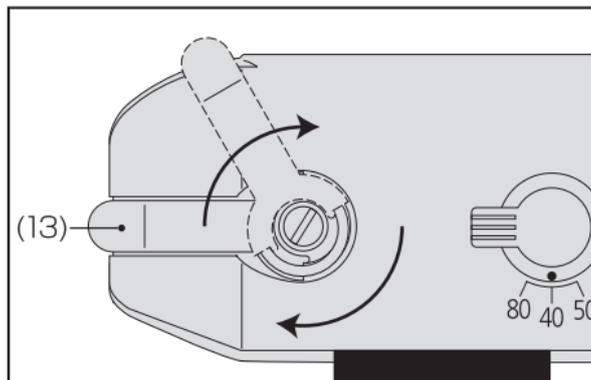
注)低速シャッタースピード使用時は、手ぶれを防ぐため、三脚、ケーブルリリース等のご使用をおすすめします。

※三脚を使用する場合は雲台の形状によりレンズのフォーカシングノブが雲台と接触する場合があります

フィルムの巻き戻し方



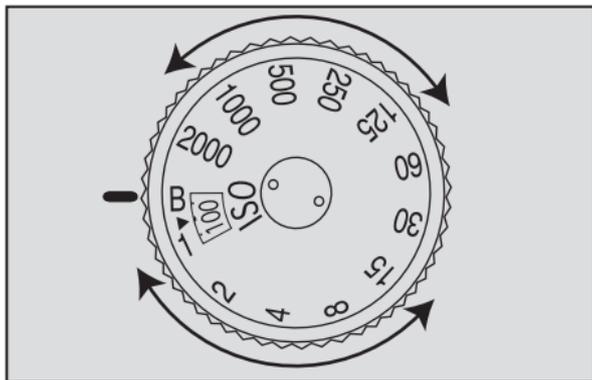
1. 巻上げレバー(1)が重くなったらフィルムカウンター(2)を確認してください。
 - ・規定枚数を撮影後フィルムを巻戻します。
2. カメラ底部の巻戻しボタン(27)を押込みます。
3. 巻戻しクランク(13)を起こして、矢印方向に回します。
 - ・巻戻しの手ごたえが急に軽くなったら、巻戻し完了です。
4. 巻戻し軸(12)を引き上げて裏ぶた(31)を開き、フィルムを取り出します。



- ・巻戻しが完了するまでは、裏ぶたを開けないでください。裏ぶたを開けるとフィルムに光が入り露光します。

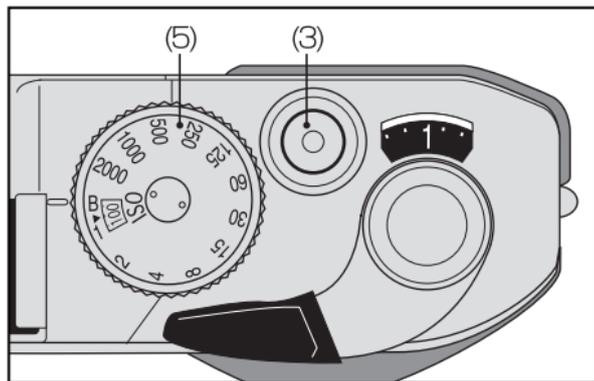
- 注) フィルムの巻戻し、取り出しは直射日光の当たらないところで行ってください。
- 注) 巻上げ途中でフィルム終端に達した場合は、巻上げレバーがロックされます。この場合、力を入れて無理に巻上げないでください。フィルムを完全に巻戻した後、いったん巻上げ操作を完了させてから元の位置に戻してください。

B(バルブ)撮影



夜景など1秒以上の長時間露出を必要とするときにご使用ください。

- 1.シャッタースピードダイヤル(5)を“B”にセットします。
- 2.フィルムを巻上げ、シャッターボタン(3)を押します。押し続けている間は、シャッターが開いています。

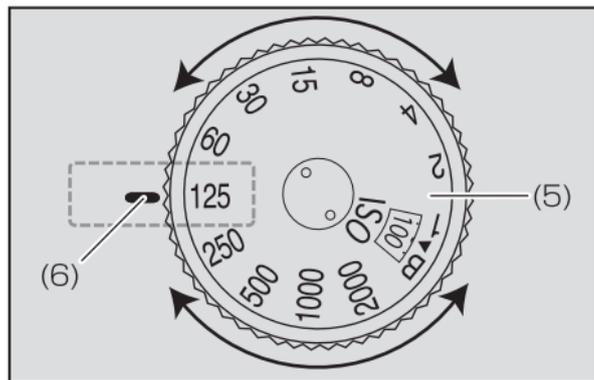


注1) 長時間露出をする場合は、手ブレなどの恐れがありますので三脚、ケーブルリリース等のご使用をおすすめします。

注2) 長時間露出をする場合は、電池の消耗を防ぐため電池をカメラ本体から取り出して撮影することをおすすめします。

※三脚を使用する場合は雲台の形状によりレンズのフォーカシングノブが雲台と接触する場合があります

ストロボ撮影のしかた



1.ストロボをカメラに取付けます。

グリップタイプ(ブラケットタイプ)のストロボを使用する場合はシンクロターミナル(24)を使用してください。

2.シャッタースピードダイヤル(5)を回し、シャッターダイヤル指標(6)に“125”(1/125秒)をセットします。

注) 1/60秒以下の低速シャッタースピードでもストロボ撮影はできますが、カメラぶれに注意してください。

3.使用するストロボに合った絞りをセットします。

注) 絞りの決め方については、ストロボの使用説明書をご覧ください。

4.ストロボの充電完了ランプが点灯するのを確認して撮影します。

35RFカメラボディ

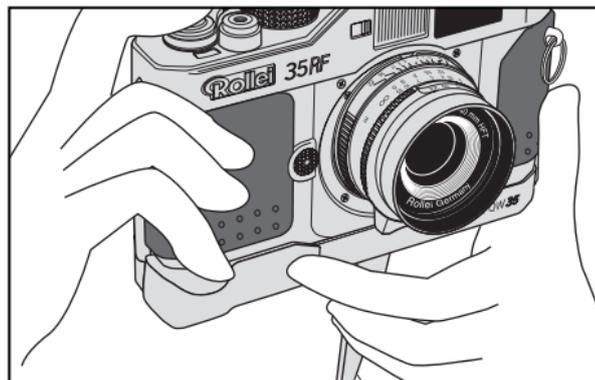
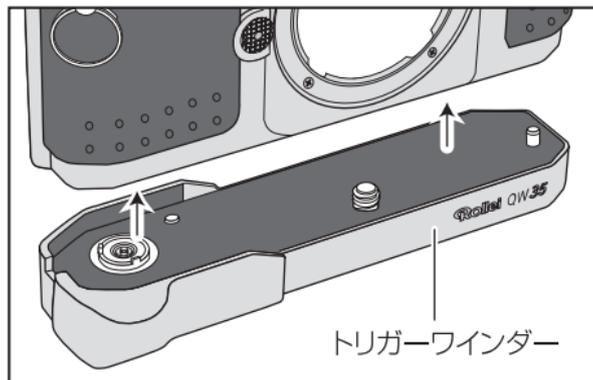
型 式	TTL 定点合致式距離計連動 35mm フォーカルプレーン シャッターカメラ (レンズ交換式)
使用フィルム	35mm フィルム
画 面 サ イ ズ	24 × 36 mm
レンズマウント	R Mマウント
ファインダー形式	実像式距離計式 逆ガリレオ透視ファインダー
ファインダー倍率	0.7 倍
距 離 計	二重像合致式 連動範囲 0.9m ~∞
視 野 枠	40mm、50mm、80mm対応 ブライトフレーム切替え式 パララックス自動補正
視 野 率	87%(3m時)

シャッター	メカニカルタイプ上下走行式 メタルフォーカルプレーン シャッター 1/2000~1秒・バルブ
シンクロ接点	X接点 (1/125秒より遅い速度で同調)
測 光 方 式	・TTL幕面ダイレクト実絞り ・中央部重点平均測光 ・3点LED表示による 定点合致方式
測 光 範 囲	EV1 ~EV19 (ISO100・F1.4;1秒 ~F16;1/2000秒)
フィルム感度	ISO25~3200(1/3ステップ)
露出読み取り	シャッターボタン1段目のON によりLED表示 (12秒間の点灯、シャッター切 後は消灯)

フィルム巻上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・小刻み巻上げ可 ・二重露出防止付 ・巻上げ前シャッターボタンロック ・トリガーワインダー(別売アクセサリー)による巻上げ可
フィルム巻戻し	<ul style="list-style-type: none"> ・巻戻しボタンおよび、巻戻しクランクによる ・巻戻しボタンは巻上げにより自動復帰
フィルムカウンター	順算式/裏蓋開放による自動復帰
電 源	LR44型 (アルカリマンガン電池)×2個、 または SR44型(酸化銀電池)×2個
ボ デ ィ 外 装	マグネシウム合金 (上下カバー・裏蓋)
大 き さ	135.5(幅)×81(高)×33.5(厚)mm

重 さ	450g(ボディのみ)
ボディカラー	ローライメタリックシルバー

トリガーワインダー



被写体を追いながら連続速写が可能な、トリガーワインダーです。

安定したホールドのまま左手のワンアクションで素早くフィルムを巻上げ、右手でシャッターを切ることができます。小刻み巻上げも可能です。

トリガーワインダー

製品コード：64301

Rollei 日本総代理店



株式会社駒村商会

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町 3-2-4 駒村ビル

TEL.03-3639-3351

FAX.03-3808-0116